5-5 東海地方の地殻変動

Crustal Movements in the Tokai District

国土地理院

Geographical Survey Institute

第1図〜第3図は掛川〜御前崎間の水準測量の結果である。最近,御前崎側の沈降が若干加速さ れたようにも見えるが,平均的には年間約5㎜の割合で沈降しており,従来と特に変化はないと考 えられる。第4図,第5図は静岡県が実施している短距離水準測量の結果である。目立った変化は ない。第6図,第7図は,水準点2595の経年変化及び静岡県による水準測量の結果を用いて得られ た水準点2601の経年変化をスプライン関数で近似したものである。また,第8図〜第11図は東海地 方の各水準路線における測量結果である。第12図〜第14図は水準測量結果を網平均して得られた最 近1,2,5年間の東海地方の上下変動であり,第15図,第16図は各水準点の経年的上下変動を示 したものである。全体として従来通り,掛川に対して焼津から御前崎にかけて長期的な沈降の傾向 を示しており,掛川西方の磐田付近で隆起している。第17図は,御前崎周辺の水準測量の結果であ り,第18図,第19図はこれらの網平均計算結果である。

第20図,第21図は東海地方の各験潮場間の月平均潮位差であるが,特に従来の傾向と大きな変化 はない。

第22図,第23図は駿河湾地方の精密変歪測量結果である。全体的として西北西-東南東方向に年間約0.2×10⁻⁶の割合の縮みが見られる。

第24図は、御前崎地殻活動観測場の長距離水管傾斜計による観測結果を同一地域の水準測量結果 と比較したものである。それぞれの観測の相関性は高く、東上がりの傾向を示している。また、第 25図は、切山地殻活動観測場の長距離水管傾斜計による観測結果である。わずかながら東上がりの 傾向が見られる。

参考文献

- 1) 国土地理院:東海地方の地殻変動,連絡会報,40(1988),272-282.
- 2) 国土地理院:東海地方の地殻変動,連絡会報,**41**(1989),346-372.
- 3) 国土地理院:東海地方の地殻変動,連絡会報,42(1989),257-267.
- 4) 国土地理院:東海地方の地殻変動,連絡会報,43 (1990),362-383.
- 5) 国土地理院:東海地方の地殻変動,連絡会報,44 (1990),240-249.



第1図 掛川~御前崎間の上下変動

Fig. 1 Level changes along the route from Kakegawa to Omaezaki.

基準:140-1 基準年:1962

●:網平均計算値による。 〇:突き出し観測値による。



第2図 水準点2595(浜岡町)の経年変化





第3図 掛川ー御前崎間の各水準点の経年変化

Fig. 3 Height changes of bench marks along the route from Kakegawa to Omaezaki relative to B.M. 140-1.

1982 1983 1984 1985 1986 1987 1988 1989 1990 لتطريفها والراعا والما والمال والمالية المالية المالية المالية المنابقة والمالية المالية المالية المالية والمالية المالية 2602-1 Cm +1 -1.2 ×T/365+0.0 × (T/365) -2-0.0 ×SIN(2 ×T/365)-0.1 ×COS(2 ×T/365) 0 -1 2601 Cm +1 -0.9×T/365-0.0×(T/365)^2+0.1×SIN(2/ ×T/365)-1.2×COS(2/ ×T/365) -1

基準:準基2129

靜岡県

第4図 水準点2602-1(菊川町)と2601(小笠町)の経年変化

Fig. 4 Height changes of B.M. 2602-1 and B.M. 2601 relative to S.F. 2129, presented by the Prefectural Government of Shizuoka.

基準:準基2129



第5図 水準点2602-1,10333(菊川町)と2601(小笠町)の経年変化





第6図 水準点2595の経年変化(スプライン関数近似)

Fig. 6 Height changes of B.M. 2595 (interpolation with spline function)



第7図 水準点2601の経年変化(スプライン関数近似)

Fig. 7 Height changes of B.M. 2601 (interpolation with spline function)







第9図 掛川-静岡間の上下変動













Fig. 12 Vertical crustal movements in the Tokai district (1). 1990 June, July – 1989 June, July.



Fig. 13 Vertical crustal movements in the Tokai district (2). 1990 June, July – 1988 June, July.



第14図 東海地方の上下変動(3) 1990年6月,7月-1985年6月,7月

Fig. 14 Vertical crustal movements in the Tokai district (3). 1990 June, July – 1985 June, July.



第15図 東海地方の各水準点の経年変化(1)

Fig. 15 Height changes of bench marks in the Tokai district relative to B.M. 140-1.









第17図 御前崎地方の上下変動

Fig. 17 Level changes in the Omaezaki region.



第18図 御前崎地方の上下変動(1) 1990年4月~7月-1989年6月,7月 Fig. 18 Vertical crustal movements in the Omaezaki region (1). 1990 April ~ July – 1989 June, July.





Fig. 19 Vertical crustal movements in the Omaezaki region (2). 1990 April ~ July – 1977 September.



1980 1981 1982 1983 1984 1985 1986 1987 1988 1989 1990

第20図 東海地方各験潮場間の月平均潮位差(1)

Fig. 20 Differences in monthly mean sea levels of tide station pairs in the Tokai district (1).



第21図 東海地方各験潮場間の月平均潮位差(2)

.

.

Fig. 21 Differences in monthly mean sea levels of tide station pairs in the Tokai district (2).





第22図 駿河湾地方の精密変歪測量結果(1)

Fig. 22 Results of precise distance measurements in the Suruga Bay region (1).



辺長の経年変化

第23図 駿河湾地方の精密変歪測量結果(2)

Fig. 23 Results of precise distance measurements in the Suruga Bay region (2).



第24図 御前崎長距離水管傾斜計の傾斜変化及び水準測量結果との比較(E-W成分,月平均値)

Fig. 24 Temporal variation in tilt observed by the long-distance water tube tiltmeter at Omaezaki (E-W component, monthly means) in comparison with levelling results.



Fig. 25 Temporal variation in tilt observed by the long-distance water tube tiltmeter at Kiriyama (E-W component, weekly means).